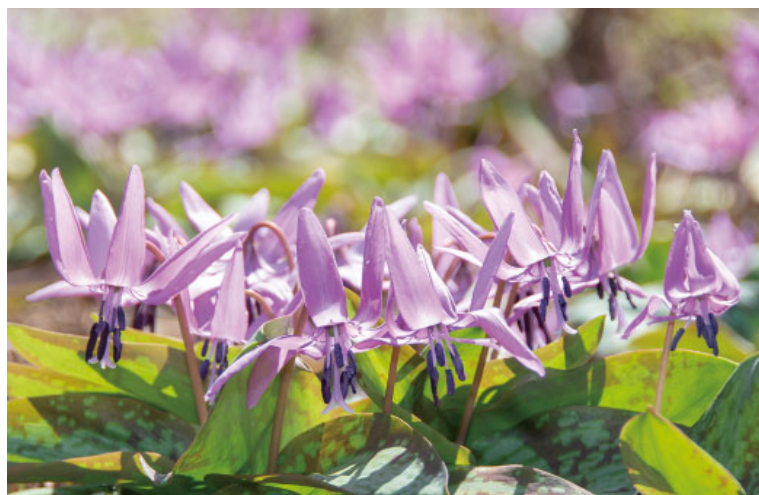
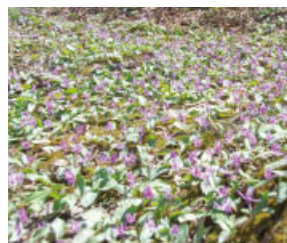
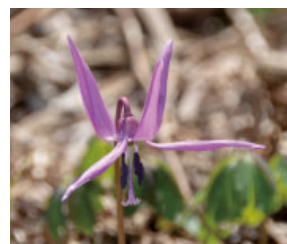
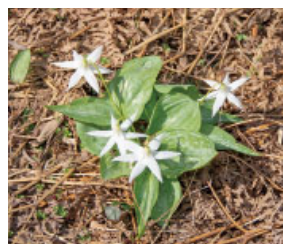


# 広報にしあいづ お知らせ版 No.178

# Nishiaizu

# 2019 5.15



## 春の訪れ告げる花 かたくりを楽しむ 薄紫色の「春の妖精」 奥川・小屋自治区 かたくり鑑賞会

4月20日、奥川・小屋自治区のかたくり群生地で、恒例のかたくり鑑賞会が開かれました。当日は気持ちのよい青空が広がり、「春の妖精」と呼ばれるかれんな春の使者を一目見ようと、町内外から多くの人が訪れ、一面に愛らしく咲き渡る薄紫色のかたくりの花を楽しんでいました。

今年で8回目となる本鑑賞会は、同自治区内に自生していたかたくりを町内外の多くの人に見て楽しんでほしい、地域の活性化につなげようと、住民らが中心となり、平成24年から毎年開催されています。当日は来場者に手作りのなめこ汁も振る舞われました。

かたくりはユリ科の多年草で、早春に花茎を伸ばし、花被片をそり返しながら下向きに花を咲かせます。雪解け後の早春のわずかな間にだけ花を咲かせ、春が本格的に訪れる頃には葉だけとなり、その後は来春まで地中で越冬するところから、「春の妖精」と呼ばれています。また、その独特な咲き方から、花言葉は「初恋」、「寂しさに耐える」とされています。

かれんに咲くかたくりの花が、来場者の目を楽しませていました。